



岩江中だより

第 29 号

発行日：平成29年 1月27日
発行：三春町立岩江中学校
電話：0247-62-8290
FAX：0247-62-8380
E-mail:iwae-j@fcs.ed.jp

学校経営基本方針『こころ豊かに、たくましく』～「共に」語り合い、分かち合い、成長する学校～

【たった一度の人生を幸せに過ごすには?! ～折笠先生による道徳教育講演会～】

平成28年度の福島県道徳教育総合支援事業道徳教育推進校として取り組んだ本校道徳教育の一つのまとめとして、第3学期早々の1月12日(木)に、郡山女子大学短期大学部の折笠国康先生を講師にお迎えし、『自尊感情を育てるためには』と題し道徳教育講演会が開催されました。

受講後の子どもたちの感想を全部読ませていただきましたが、どれも、ご講演の趣旨を理解し、「自尊感情」とは何か、「自尊感情」をもてるとどんないいことがあるか、「自尊感情」をもつためにはどうすればいいのかについてしっかり聞き取っていました。「めっちゃ感動した。これまでの講演でいちばん感動した。」という感想が子どもたちの心の大きな動きを表しています。

ご講演は80分という短い時間で、子どもたち一人ひとりの質問・疑問等にすべて答えることはできないので、折笠先生は、「後ほどでもいいので何でも言ってよこしてください。」と仰ってくださいました。子どもたちの感想や意見への学校からの回答を掲載いたしますので、保護者のみなさんとも共有したいと思います。

① 「自尊感情がない人に何と言ってあげればよいか知りたい。」

→ 年齢を重ねてからの自尊感情の育成は難しいかもしれないが、人として生きていかなければならない現実をふまえ、何をどう働きかけたらいいのかについて一緒に考えていくという姿勢が大切であり、そういう人の存在自体を忘れないことが大切だと思う。

② 「ぼくは先生の言っていることにすべて反発してしまう。しかし、それはいいことだと知ったので、これからもどんどん疑問をもって理由をはっきりさせていきたい。」

→ ものごとの本質を見極めようとクリティカルに考え行動することは大切だと思う。反発は次なるアクションへの原動力でもあるので大切だと思う。ただし、自分が正しく相手が間違っているという前提での言動ではなく、広く話を聞き、冷静に判断し、本質を適切に見極めていくという姿勢は大切だと思います。

もう一つ、集団の一員としての役割の自覚も学ぶべきことであり、反発をどこでどのようにかたちにするかは集団への影響を考えた上でアクションを起こした方がいいのではないですか。

③ 「私は“嫌だ”が言えなかったのが嫌だと言えるようになりたい。自尊感情を得るためには自分でしっかり決断し進むことが大切だと思いました。言われたことを言われたままにすることは良くないという事が分かったのでこれからは自分の意見を考えて行動しようと思った。」

→ 嫌だと言えない自分や嫌だと言ってもいいということに気づけてよかったと思います。さらに、チャレンジということもお話ししました。嫌だということによって自尊感情が育つのではなく、ものごとの本質を見極め、道理に合わないという判断を下せるものはそうすることが嫌だと言えるということではないでしょうか。

④ 「私は遠慮するときや相手の言葉に従わなくてはいけないという考えで行動してしまうことがあるので、疑問を持つことや自分の考えを貫けるような行動をしたいと思います。」

→ 疑問を持つこと、信念をもって自らの考えを貫き通すこと、貫き通せるだけの信念をもつために徹底して考えることが大切だと思います。



⑤ 「自尊心が高いと人生が楽しくなるので高くして、楽しく毎日を過ごしたいです。自分も人生楽しかったと言えるようにしたい。」

→ 好きか嫌いか楽しいか楽しくないかの判断の規準となるということです。楽しさとは何か、自分が納得できる生き方とは何か、命が終わろうとしているときの「やり過ぎたかな。」は「とことん好き勝手をやれたよ。」と同義語ではありません。それに伴って自分が果たすべき責任はないのかなどについて一緒に考えていきませんか。

⑥ 「自分のやりたいことをやって、自分で決断して進むことができるようになりたい。」

→ 自分のやりたいことって何なのかを見つけるために、たくさん学び、たくさんチャレンジしてみることが大切なのではないかな。この感想だけを見ると、何だか、何にも面倒でやりたくないという気持ちの裏返しがりやりたいことをやるという表現になっているような気がして仕方がないのですが。そのことについてじっくりお話させていただきたいな。

⑦ 「『私は〇〇だ』というのについて何も思いうかびませんでした。」

→ 〇〇に言葉を当てはめるのは大人でも難しいと思います。自らを客観化し、それにふさわしい言葉を当てはめるのは至難の業なので、そういうときには、「私にはこれがある」という状況を表す言葉を当てはめて答えてもいいんじゃないでしょうか。大切なことは、その〇〇が今の自分よりワンランク上の目標や状況であることではないでしょうか。

⑧ 「いつも言われたことを嫌々やって楽しい日々を過ごせていなかったの、これからは自分の意志をもって幸せな日々を過ごしていきたいです。」

→ 嫌々やるのは本当に楽しくないですね。嫌々やらなくていい何かを見つけられるために、たくさん学び、たくさん経験し、たくさん疑問を持ち、納得のいく答えを見つけ出していきたいでしょう。

もう一つ、今やっていることの意義づけができるよう、今自分がやっていることにはどういう意味があり、自分や他にとってどんないいことがあり、楽しいという気持ちにつながっていくのかについて一緒に考えてみませんか。

⑨ 「先生に疑問があったとしても聞いたところで生意気だと怒られるとずっと思っていたけど、生意気だといわれても別に生意気だとわかって言えばそれで自尊心がもてるとわかった。自尊心を育てるために疑問に思ったことは素直に聞きたいと思います。」

→ 先生に口答えするのは生意気だと考えていたんですね。残念な出会いと結論でしたね。岩江中学校はそうならないために、講演会を開き、クリティカルに考えること、Next One の精神で、学びの環境づくりに取り組んでいます。そういう学校であることがチャレンジ精神であり、ワンランク上の目標でもあります。

⑩ 「自尊心のことがよくわかった。学校のルールに逆らってもいいなと思った。学校からは雑誌をもってきていけないと言われていたのだけれど。」

→ 道理に合わないルールなら改善のために行動することは大切です。そのルールがどのようなものか、どうあればいいのかについて疑問の目をもち、一緒に考えていきましょう。

雑誌を持ってきていけないというのは押しつけられたルールではなく、学習に集中して取り組む公の場である学校でのみんなの共通理解だと考えます。個人的嗜好の雑誌は個人的な場で読んだり見たりすればいいと思います。

⑪ 「自分がやりたいことをやって人生を楽しく過ごそうということで自分がやりたいことをやっていたらいいのかなと思いました。」

→ たった一度の人生を楽しく過ごすためには自らの好き嫌いをもとに、やりたい、やりたくないという判断で行動することが一つの方法だと思います。しかし、自分のことより他の人のために何ができるかを常に考えて行動する、そういう人生もいいかなと思います。それをつまらない人生だとは決して思いません。人がどう生きるかはその人が決めればいいのかと強く思います。



⑫ 「周囲の状況を気にせず自分をつらぬくことができていなかった。」「本気とは周りの目を気にせずやる。まさにそのとおりだと思いました。」

→ 気にしなくていいのかどうか、気にしなくていいというのなら、気にしないで言動することの責任は誰にどのようにかかっているのかについては慎重に考えないといけないと思います。よくわからないので話し合っていきたいと思います。

⑬ 「あの人が担任だったらいいなと思った。先生達の言うことがすべてじゃないと思った。」「折笠先生のような考え方を持つ先生がいたら楽しく目標にむかって生活できると感じた。」

→ そうですね。押しつけられるだけの指導では嫌気がさしてしまいますね。生徒は担任を選べないので、その中でどう担任の先生と意思疎通を図っていくかを考えてはどうですか。東京の方では自分で行きたい学校を選べる場所があるそうなので、高校を選択するときにはぜひ、そういう高校と担任の先生を探し選んで受験してください。話を聞くことと話を聞くことは混同しないで考えてみましょう。

⑭ 「今日はマジで共感できた。自分が正しいと思う意志や目標を貫き通す。」

→ 正しい判断をするために、しっかり人の話を全部聞き、しっかり学び、しっかり体験し、社会の一員として適切な言動が選択できる力を身につけていけば、幸せな人生をおくることのできるのではないのでしょうか。ただし、自分が正しいと思うことが人も正しいと思うのかは考えなくていいのか疑問です。一緒に考えていきたいと思います。

⑮ 「親の言う事はきかなければいけないと思っていたけど、これからは嫌な時は嫌と言って自分で決断できる人になりたいと思いました。」

→ どんなことを言われているのかわからないのですが、親は何のためにあなたに向かって何かを言うのでしょうか。親の言っているお話の意味や思い、レベルについて考えてみることは価値があるのではないのでしょうか。よかったら、今度、どうしてと親に疑問を投げかけたり、自分で考えたりした結果を教えてください。

いかがでしたか。耳が痛いような表現もございましたが、あえて掲載いたしました。今、子どもたちの心が動きました。開きました。1年間、道徳教育に取り組んできて、先生方も道徳教育に関して学び直しました。子どもたちも自分の人生について確実に見つめることを始めました。今が、そして、これからは、人としていかに生きていくべきかについて、共に学び、共に語り合い、共に成長するチャンスです。子どもたちと学校と保護者のみなさんとが一緒になって、幸せな人生というものについて、納得のいく生き方というものについて学んでいきませんか。

【冬真っ盛り！ ～つららが伸びて、雪遊び、いろんな鳥がそこここに～】

校舎の屋根から伸びるつららの長さが冬の寒さを物語ります。ビニールパイプの中には雪つぶが詰め込まれていました。音楽室のとんがり屋根の頂点では、一羽のカラスが郡山の町並みを眺め、木の枝には雀の実がなり、白黒のセキレイはアスファルトをしきりにつついています。

朝、横断歩道に立っていると、冬のさまざまな風景が目に入ります。横断歩道では、たくさんの車が子どもたちのために止まってくれるようになりました。うれしいかぎりです。気温は低いですが、心が温かくなります。デコ屋敷生まれの大小の鳥のコンビは校長室でぬくもっています。

